

3月9日に行われた市長の平成21年度市政運営の所信と
主要施策の概要説明に対し質問がありました。

質疑 ごみの減量化や再資源化等の一助として「レジ袋削減」に向けた取り組みとは？

答 平成20年度は、マイバツクの無料配布、レジ袋削減運動に関するアンケートを実施し、積極的な参加呼びかけを行いました。平成21年度については、「マイバツク持参などの広報・啓発」、「事業者への協力依頼」、「地球温暖化対策及びごみ減量などの循環型社会の形成に向けた環境教育の推進」に取り組んでまいります。

質疑 上水道事業における給水区域の拡大と事業収益のアップについての年次計画は？

答 千代田地区において、土浦・千代田工業団地内の区域を平成17年3月、合併の事業認可の時点で、かすみがうら市の給水区域に設定したところです。平成21年度事業を初年度とする3カ年計画で、当該区域の事業所に給水するための配水管敷設工事を行い、平成24年4月からの給水開始を目指すものです。なお、この給水開始に伴い給水収益を試算しますと、約3,000万円程度増収になるものと見込まれます。

質疑 石岡地方斎場の移転建設について、合併特例債活用は市負担の削減になる保証はあるのか。また、徹底した経費の削減とは具体的に何か？

答 合併特例債については、合併後の市町村の一体性の確立や地域の均衡ある発展に資するために行う公共施設等の整備事業が対象となり、充当率95%で元利償還金の7割が普通交付税で措置されるものです。この支援制度については、合併特例法に定められた措置であり、保証されたものと認識しております。構成する市の財政状況が厳しいことを認識して、施設管理にあたっては保守点検や整備を徹底し維持管理費等を最小限に抑え、経費の削減に努めるよう求めます。

質疑 地域活性化・生活対策臨時交付金に有効活用による地域ニーズに応じた道路網の整備計画について

答 地域ニーズを元に事業計画を立てていた箇所の工事に充当予定です。インフラ整備を基本として地域活性化を図ることがねらいでもあり、道路整備にも有効に

活用したい考えです。また、生活道路等を計画的に進めるに当たっては、区長要望等により把握に努めているところです。

質疑 消防団の再編の計画づくりの目的と趣旨を問う

答 今日の災害や事故は複雑多様な傾向を強めており、市民の安心安全を守るため計画的な防災体制づくりと防災力の強化が求められています。当市の消防団は、車両及び詰所が老朽化し修繕等頻繁に実施していることから、更新整備が必要な状況にあります。小型動力ポンプ積載車を部の再編を行うことにより消防ポンプ自動車に変更し、適正な配置を行うとともに更なる消防力の強化を図るため、再編を進めるものです。

質疑 特定健康診査の受診率の実績と目標値の年次計画は？

答 平成20年度の受診者数は2,756名、受診率30・1%、目標値40%を下回る結果となりました。国においては、目標年次である平成24年度には受診率65%の達成を求めている、当市においても、周知の強化を図り、目標年次の

受診率達成に努力してまいります。

質疑 介護保険の各種給付と介護予防について、国の新しい要件介護認定方式について問う

答 今回の制度改正では、本来の認定の手法については変更ありませんが、認定調査項目が現行の82項目から14項目除外され、新たに6項目の追加により74項目となるものです。さらに、一次判定について最新のデータにより検証された認定ソフトの改定が実施され、審査結果の精度が高まります。二次判定では認定審査会において要介護度の結果が示されますが、一次判定の変更は現行の4指標から3指標を除外し、「要介護認定等基準時間の行為の区分ごとの時間」のみに限定され、介護の時間を重点的に見るものになりました。今後は審査判定の平準化が期待できるものと考えます。

質疑 次世代育成支援地域行動計画の見直しは何時までを目標としているのか

答 次世代育成支援対策推進法の規定に基づき、当初の行動計画が平成22年をもって期間満了となることから見直しを行い、平成26年度までの5年間の行動計画を策定するものです。

質疑 放課後児童クラブについて、民間との整合性は図られているのか

答 民間児童クラブの開設については、障害を持つ児童の受け入れ及び開設時間の延長、地域において公設では対応できない4〜6年生の児童を受け入れる点で整合を図っています。利用者負担については公設では月額3,000円に対し、教材費等やお迎えと開設内容を踏まえ、月額7,000円となっております。

質疑 「ふるさと納税」制度により寄せられた積立金はどれ位か

答 2名、金額は合わせて120万円です。いずれも小中学校の図書購入費用に充て、教育分野の振興に役立てたいと考えています。

質疑 小中学校の適正規模・適正配置の検討の目標年次は。地域住民懇談会の予定は？

答 学区審議会の協力を得ながら検討しているところであり、目標年次としては平成21年度、22年度の2カ年と考えております。また、地域の皆さんの意向をアンケート調査により伺っておりますので、市の考え方が整理できた段階で、懇談の機会を設けたいと考えております。

質疑 B & G千代田海洋センターのプール修繕について

答 B & G財団との協議により、4分の1の助成を受けて改修が出来ることとなり、施設の適切な管理、利用者の安全を確保すると言う観点から進めるものです。

質疑 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金事業はどれ位の財政措置があるのか。年次計画として位置づけられているか

答 国の事業として、平成21年度から平成25年度までの事業であり、事業費の2分の1を補助します。市もこれらの事業に併せ、上乗せを行い、事業費の4分の1を補助します。134万5千円を当初予算として計上いたしました。

質疑 農作物の残留農薬検査の強化支援とは？

答 農協の部会や直売所で行う農作物の残留農薬検査に対し補助を行ってきました。この補助を継続し体制強化を図ってまいります。

質疑 地域農業の再生の新たな担い手づくりには価格・所得保障など農家経営が成り立つ農政の確立が第一だと考えるが、財政的支援はあるのか

答 県の農業改良普及センター等に支援をいただき、就農者に

対する助言等を行っています。就農計画書により農業経営全般に対する助言や資金を無利子で受けられる制度などを紹介、園芸産地総合整備事業補助金など、機械・施設等についても支援しております。

質疑 プレミアム付商品券の発行についての支援策とは何か

答 地域活性化・政策対策臨時交付金を財源として、市経済の活性化に即効性のある景気浮揚対策として実施するものです。商工振興事業の中に、「がんばる商店街支援事業補助金」2,500万円を計上いたしました。



質疑 地域の特性を活かした自主的な活動を行うグループ等の事例は

答 聴覚障害者や寝たきりの高齢者へのボランティア活動、読み聞かせや紙芝居のボランティア、霞ヶ浦帆船引き船まつり実行委員会など、「かすみがうら市地域振興グループ等育成補助金交付要項」に該当するグループ（団体）が補助金交付の対象となっております。地域づくり活動を支援しております。

質疑 霞ヶ浦庁舎の市民交流の拠点としての機能について、あじさい館の位置付けは？

答 庁舎としての機能のみでなく、新たな人々の交流拠点が強化されると考えるものであり、庁舎敷地内に設置予定の市民交流広場の活用が重要であると考えます。「あじさい館」については、総合コミュニケーションセンターとしての複合施設であり、広場はスポーツやレクリエーションに利用されています。複数の施設が1箇所に集まることで、お互いの機能が利便性を増幅し、利用する市民の方々にとって大きなメリットになると思われます。両施設の連携により、市民相互の交流拠点としての相乗効果を期待するものであります。